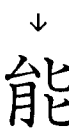
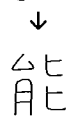
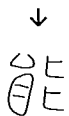


能

五年

画数 10
筆順 ムム 育 能
オン ノウ

成り立ち



「熊」の形を表した字で、もとは「くま」という字でした。

「くまの力」は「能力」と言い、「大そう強い力」でしたから、「大そう強い力」のことをすべて「能力」と言うようになりました。

強い力はどんなことでも「できる」ので、「できる」という意味になり、「能力」は「物事をなすとげる力」という意味を表すことになりました。

「能」が「強い力」や「できる」という意味の字になりましたので、「くま」は「熊」という字になりました。

使い方

▽わたしは作家になりたいと思っていますのですが、そういう能力があるかどうか心配です。可能ならば、童話を書いてみたいと思います。

▽ぼくのおかさんは有能な主婦です。家事をてきぱきとこなした上に、色々と実用的なしゅみも持っていて、ぼくやおとうとのセーターなどをあつという間にあんでしまったりします。

熟語例

- ▽能力(物事をなすとげる力)
- ▽可能(何かができること。また、ありうること。)
- ▽有能(能力があること。)
- ▽無能(能力がないこと。)
- ▽才能(物事をなすとげる頭の働き。「あの人は才能のある画家だ」などというふうに、つかいます。)
- ▽多能(多くの面で能力があること。「多能も良いが、何か一能があればそれでよい」などと、つかいます。)
- ▽本能(生物に、生まれながらにそなわっている能力や行動様式。「渡り鳥は本能にしたがつてふるさとへ飛んで帰る」などというふうに、つかいます。)

破

五年

画数 10
筆順 ハ 石 石 破
オン

成り立ち



「石」という字と、「皮」という字とを組み合わせて作った字です。

「石が当たって、皮が「やぶれる」ことを表した字です。「やぶれる」「こわれる」という意味に使われます。

【例】破壊、破談、破局。

「やぶる」「こわす」という意味にも使われます。【例】打

破、破格、破戒。

また、「やりぬく」という意味にも使われます。【例】読破、踏破。

使い方

▽戦争はすべてを破壊します。財産や生命や幸福など人々にとって大切なものをすべて破壊してしまうのです。わたしたちは何があっても、平和を守り続けなければいけません。

▽ぼくは、今月だけで五さつの本を読みました。来月は、もっとたくさんの本を読破したいと思います。

熟語例

- ▽破壊(こわすこと。こわれること。)
- ▽打破(打ち破ること。「悪い習慣を打破して、新しい良いやり方を実行しよう」などというふうに、つかいます。)
- ▽読破(読みあげること。読み切ること。)
- ▽破産(財産を全部なくすこと。)
- ▽破談(約束や相談がだめになること。とくに、縁談がこわれることを言います。)
- ▽破局(局面が最悪になって、ことが破れること。だめになること。「三十年の平和への努力も、ついに破局をむかえた」などというふうに、つかいます。)
- ▽破戒(戒めを破ること。)